

鷺宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.32(2025. 5 月)

社会科同好会編③ 「『三たびの海峡』(青年劇場)観劇」

2025年5月24日(土)、新宿の紀伊國屋サザンシアターで上演された『三たびの海峡』を、生徒4名、教員1名で観に行きました。この上演初日の回は「高校生無料デー」とのことで、他校の演劇部員なども観に来ていたようです。『三たびの海峡』は、1992年に刊行された帚木蓬生氏の小説を舞台化したもので、映画化もされています。翌日観に行ったもう一人の顧問は、「朝鮮人労働者の強制連行・強制労働という重たい内容だけれど、1年生4人に観てもらってよかった。2年生の日本史の授業で、さらに理解を深めてもらえたらいいな」と思いました。

◆ものがたり紹介◆(青年劇場チラシより)

「生者が死者の遺志に思いを馳せている限り、歴史は歪まない。」(原作より)

199X年、河時根(ハー・シゲン)は戦後日本に残った同胞からの手紙で、海峡を越えることを決意する。17歳の時、強制連行により福岡の炭鉱の坑夫となり、1945年に妻を連れて韓国に帰ったものの、妻子とは離別。それ以来四十数年ぶりに日本に向かわせたのはなにか。



以下、観劇に参加した生徒の感想を紹介します。

- ◆今回の劇を見て思ったことは、日本に強制的に連れてこられて働かされた朝鮮の人たちがとても辛い思いをしたということが印象づけられました。何かに文句を言ったりすると木刀などで叩かれてしまった場面では肉体的に辛く、誰か内通者がいるという場面では精神的に辛くなってしまふところが伝わってきて心が苦しくなりました。このようなことがあり 21 人ものが亡くなってしまったということにも残虐性を感じました。これからはこのようなことが二度とないようになっていって欲しいという思いと同時に、日本が起こしてしまったことをちゃんと保存して忘れないようにしていくことが大事だと思いました。
- ◆今回の劇では日本人の視点ではなく、朝鮮の人々の目線から戦争について考えることができました。また、戦争に対する今までのイメージが変わり、より戦争の怖さや大変さについて学ぶことができました。戦争による過酷な労働などを経験した人たちの思いや実際にあった出来事について知り、継承していくべきだと感じました。
- ◆社会の授業で勉強したことよりも戦争や日本と朝鮮の関係について深く知ることができました。当時の日本が朝鮮に対してたくさん暴力を振っていたことは知らなかったのが今日の劇場を見てとても心が痛みました。私たちが昔のことを知らないのは、昔の日本人が朝鮮の人に対してやってきたことを隠したりしたからなのかなと思いました。反抗したら木刀で打たれてたくさんの命がなくなっていたのがとても心苦しかったです。途中で朝鮮人が逃げる時に日本の監視係？みたいな人を首を絞めて殺してしまった場面では私は日本人なのに何故か朝鮮の人に同情してしまいました。日本人は朝鮮の人に対してとても酷いことをしたか劇を見て感じました。劇を見る前よりも少し戦争で起こっていたことに対して興味を持ちました。とてもいい劇を見ました。
- ◆演者の皆様が全力で演技していてとても面白い公演でした。戦争や奴隷のように扱われた朝鮮人労働者について学ぶことはあまりなかったので新しいことをたくさん知ることが出来ました。人間の汚い部分が見えるシーンが多くて、悪いことをしている人だけ共感するところがあってどこか嫌になれないという事が多かったです。全員が自分の正義をもって、月日経ってもそれを続けるのが凄いなと思いました。それでもこの物語は最終的に死んでしまう人ばかりで、やっぱり戦争は何も生まないと実感しました。後半のシーンは客席の方に来たりして、まるで自分が参加しているようでとても楽しかったです。暗転して花が降ってくるところも一気に世界に惹き込まれていくような感覚で感動しました。素敵な公演をありがとうございました！